



『外食崩壊寸前、事業者の声』緊急記者会見 に登壇いたしました。

この度、多くの飲食店が抱える苦難や課題を集約し、飲食に関わる18団体が結束し「食文化を未来に繋ぐ飲食アライアンス」として声を上げ、2021年6月10日（木）に『外食崩壊寸前、事業者の声』緊急記者会見が開催され、当社代表の佐藤も登壇させていただきました。「コロナ禍を乗り切る」という共通の課題のもと大同団結し、国民世論に対して、そして政治に対して、感染対策と経済対策の両立を実現できる真に必要な政策に向けた転換についてお伝えいたしました。

日本の食文化は土壌や水質毎に工夫を加える農水酪畜産業、家内制手工業的要素さえある伝統的な発酵・醸造・熟成技術を継承した加工・生産業、品質を保持できる物流システム、流通業、そして我々外食産業等の食に思いを込めた業界人が一丸となって長い年月をかけ、蓄積しつくりあげてきたものです。

コロナにより様々な制限がかかる中、苦しい営業ではありますが、来てくださるお客様はじめ、時短協力金、雇用調整助成金などの補助金でギリギリの命をつないでいます。

しかしこのような状況が続く中で、希望を失いつつあることも事実であり、継続するには限界にきております。

これこそが長きに渡り育み、世界に誇るべき日本の食文化自体の崩壊の危機だと考えます。

先人たちにより積み上げられてきた素晴らしい食文化をこれからも繋いでいくために、そしてコロナが落ち着いたらいつか日本を訪れたいと思っていただけるように、「この国の未来をつなぐためのファンド」を考えてもらえないでしょうか。このような趣旨を記者会見においてお話しさせていただきました。テレビ等ニュースでは一部のみを切り取り放送されてしまうという現実の中、真意をお伝え致したく、ここにご報告申し上げます。

金融関係者、政府、自治体、食の仲間たちで未来に向かっていけるならば、この困難を乗り越えていけると信じています。何卒よろしくお願ひします。

▶ 佐藤登壇部分はこちらより御覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=T8RbfNoZcf4>